

事 項	均衡のとれた発展と地域協議会の継続について
-----	-----------------------

合併により、組織統合が図られるなど行・財政運営が効率化され各種経費の縮減を図ることは、合併の主要な目的であります。行・財政改革を進めるに当たりましては「各地域の特性を活かした均衡のとれた発展」に今後とも配慮下さるようお願いいたします。

また、地域協議会の意見を各種事業推進に反映出来るよう、来年度以降も地域協議会の継続を要望いたします。

(回答)

行政改革の基本は、地方自治の基本原則である「最少の経費で最大の効果」が発揮できるよう、効果的で効率的な行政運営に努め、行政サービスの提供を将来においても持続可能となる行政システムを構築することにあります。

さらに、行財政改革の取組は、市民間における均衡のとれた受益と負担の上に立つものであることを基本原則としております。

ただし、本市の場合は一市七町の合併により誕生した全県一の広範な面積を有する自治体であり、立地、気候、風土などの条件により市全域の画一的な取組が困難な場合も想定され、そうした場合は地域の特性に十分配慮の上、行財政改革に取り組んで参ります。

また、地域協議会につきましては、各地域自治区に設置することと定められております。

新市誕生後、最初の任期4年が過ぎようとしておりますが、これまでの協議や運営を踏まえ、改めなければならないところは改めることも視野に入れ、委員の皆様の意向に沿って継続されるのが基本であると認識しております。

(企画調整部・行政改革推進本部)

事 項	由利高原鉄道鳥海山ろく線の利用促進について
-----	-----------------------

鳥海山ろく線は、昭和61年の開業以来、地域住民の足として利用されてきました。しかし、近年の利用人員の減少に伴い、今後の運営について再生計画が策定され本年度から実施されているところです。

来年度は、矢島中高連携校が開校しますが、山ろく線は、通学生や沿線地域住民の通勤、通院、さらには、観光客の足としても、欠くことのできない交通手段と考えます。

本年10月以降は、時差通勤を可能とした市の対応により大幅な市職員の通勤時の利用増加など支援頂いておりますが、地域住民も矢島地域協力会の一員として利用促進に様々な形で協力・努力していきたいと考えます。

市においては、今後とも全市の課題として取り組んで頂き、その利用促進に向けた支援の継続をお願いするものです。

(回答)

鳥海山ろく線の平成20年度上半期の利用客については、通勤定期客が伸び悩む中、団体利用客は沿線地域の駅愛好会等の団体から生ビール列車などの貸切列車を数多く利用していただいたことや、旅行会社と提携した「七夕列車」などのイベント列車の企画が功を奏して、前年同期の約2倍となっており、本年7月はじめに実施しました「利用促進リレーシンポジウム」の効果が出てきているものと分析しております。

また、通勤定期客については、9月に沿線市職員利用促進説明会を開催し、時差出勤制度の試行やパークアンドライド駐車場等について説明したところ、現在30名の市職員が定期客として通勤利用しており、下半期では通勤定期客は大きく増加しております。

一方、買い物や通院等で利用する普通旅客については、前年度同期の実績を割り込んでおり、その利用促進策が必要と考えております。

その方策の一つとして、通院客の鉄道利用の利便性向上のため、矢島駅及び前郷駅の有人駅において病院の受付処理を行い、鉄道での移動時間を診察までの待ち時間とすることによる「待ち時間短縮システム」の構築であります。

このシステムの構築により、矢島・本荘間で約40分間、前郷・本荘間で約20分間、確実に待ち時間の短縮に繋がることになり、このことが鉄道の利用促進に結びつくものと期待をし、目下、先進事例等の調査・検討をしているところであります。

いずれにしましても、鳥海山ろく線の利用促進は、沿線住民のみならず市民全体からのご理解とご協力が必要であり、鉄道会社はもちろん、鳥海山ろく線運営促進連絡協議会など関係団体とも緊密に連携し取り組んで参りたいと存じますので、当地域協議会、地域住民におかれましても、ご支援とご協力をいただきますようお願いいたします。

(商工観光部)